

(1) 研究主題

教科など	研究主題	記事
算数	「確かな学力をもち、自ら学ぶ子どもの育成」 ～算数科の基礎基本を大切にされた基礎学力を高める指導の工夫～	

(2) 主題設定の理由

「確かな学力」とは、基礎基本的な知識・技能の定着、自ら考える力（思考力・判断力・表現力・意欲）の育成であると言われている。昨年度は、確かな学力をもち自ら学ぶ子どもの育成を目指して、特に伝える力を子ども達につけるにはどうしたらよいかに重点をおき、国語科を窓口の研究が進められてきた。今年度は、昨年度までの研究を受けて、国語以外の教科の中でも自ら考える力を育てるために、算数科に窓口を変えて研究をしていきたい。

算数科での基礎基本とは何かということについて明確にした上で、子どもたちに基礎学力を確実につけるための手立てについて校内研究を通して探求していきたい。また、基礎学力を土台として、算数科でも言葉による表現を大切に「伝えあう力」の育成を進めていきたい。

(3) 研究の内容と方法

- ① 研究テーマに取り組むことにより、学校のめざす子ども像「学びあう子」を実現する。
- ② 「学びあい」を重視した学級作り
- ③ 考えさせる発問や課題の工夫
- ④ 日常的な積み上げの継続
 - ・「話す・聞く」の約束
 - ・ステップアップタイムの活用
 - ・基礎基本を定着させるための手立ての開発
 - ・読書活動の推進
- ⑤ 算数科の中での言語活動の工夫

研究の仮説

学習の基礎基本を身につけ、子ども同士の学びあいの場を効果的に取り入れれば、自ら考え学ぶ子どもを育成することができるだろう。

I 研究の柱

- ① 校内研究授業（授業改善）
- ② ステップアップタイムの取り組み
- ③ すこやかタイムの取り組み
- ④ 職員研修（職員の指導力の向上）

II 研究の進め方

☆研究仮説を設定し、仮説に沿った授業作りに取り組む。

☆公開授業の実施・授業研究会の開催

一人一授業公開

学年一は、授業研究会を持つ。

☆部会別研究の推進

学年部を基本に、研究・実践を推進する。

研究推進部と学年部・少人数担当が連携し、全体の研究を進めていく。

必要に応じて、外部講師の招聘を行い、研修を深める。

☆職員研修の推進

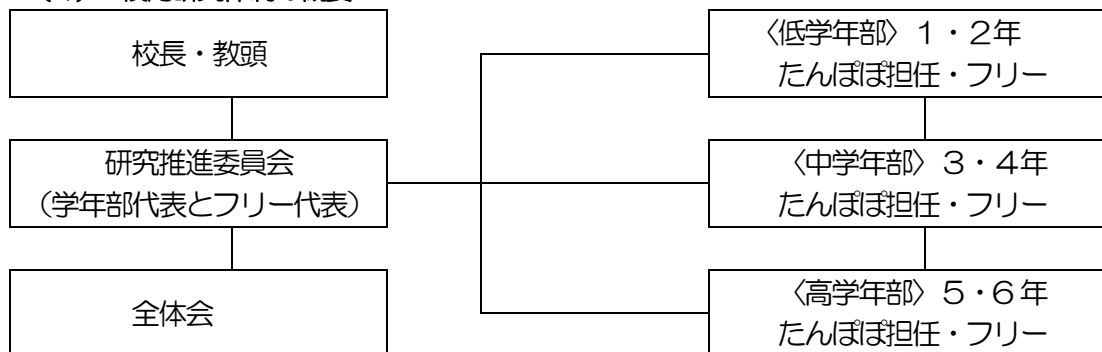
教師としての質の向上のために取り組む。

(4) 校内研究・校内研修の年間計画

月	校内研究	職員研修
4月	研究主題の設定・研究の進め方確認	日吉ブロック着任者研修
5月	各学年の子どもの実態交流・めざす子ども像・指導力点 学年研究(たんぼぼ6/1<月>)	雄琴の子どもを語る会 特別支援教育研修
6月	授業公開と全体研究会 (たんぼぼ 6/8<水>) (6年 6/28<火>)案	情報教育研修 AED研修会
7月	授業公開と全体研究会 (5年 7/6<水>)案	雄琴の子どもを語る会 教育相談研修 生徒指導研修
8月	学年研究・教材研究	講師招聘・研修会 学校安全研修 授業研修<道徳><国語> 職員研修(服務)
9月	学年研究・教材研究	
10月	授業公開と全体研究会 (年 / < >)	外国語教育研修
11月	授業公開と全体研究会 (1年 / < >)案	雄琴の子どもを語る会
12月	授業公開と全体研究会	人権教育研修
1月	授業公開と全体研究会・講師招聘 田中先生 (年 / < >) (年 / < >)	
2月	研究のまとめ・紀要作成	環境教育研修 雄琴の子どもを語る会
3月	次年度の方向について	

学期一回の講師招聘を予定 (久米 央也先生)(守山市教育委員会)

(4) 校内研究体制の概要



(5) 過去5か年間の研究主題および指定研究歴

- ① 平成18年度 「確かな学力をもち自ら学ぶ子どもの育成」
～学習へ臨む姿勢と基礎基本の定着をめざして～
- ② 平成19年度 「確かな学力をもち自ら学ぶ子どもの育成」
～確かな学力の定着と伝え合う力を育てるための学習作り～
- ③ 平成20年度 「確かな学力をもち自ら学ぶ子どもの育成」
～考える力、表現する力をつけるための指導の工夫～
- ④ 平成21年度 「確かな学力をもち自ら学ぶ子どもの育成」
～言語力・表現力を大切にし伝えあう力を高める指導の工夫～
- ⑤ 平成22年度 「確かな学力をもち自ら学ぶ子どもの育成」
～言語力・表現力を大切にし伝えあう力を高める話し合い活動の工夫～